

令和元年度 大阪府立大手前高等学校
第3回学校運営協議会（全日制部会）

令和2年2月14日（金）
14：00～16：00
府立大手前高等学校校長室

- 1 開会・校長挨拶
- 2 会長挨拶
- 3 委員・出席者紹介
- 4 校長説明及び協議
 - ・生徒状況・行事等の報告（11月～）
 - ・令和元年度学校教育自己診断結果
 - ・令和元年度学校経営計画進捗状況
 - ・令和2年度学校経営計画（全日制・定時制）（承認事項）
- 5 自治会役員生徒との意見交換
- 6 閉会

いただいたご意見

＜生徒状況・行事等の報告（11月～）＞

1 進路実現に関して（第一志望をあきらめさせない・塾に負けない・自習室の利活用）
塾の映像教育は寝てしまうことが多く、集団指導では生徒数が多く講師の指導が手薄になっている。結局、大学入試の過去問に取り組んでいる生徒が伸びている。大学側も「こういう学生がほしい」ということで出題しているため、過去問に取り組むのが勉強法として良い。生徒どうしで切磋琢磨し勉強している。

面談について、3者か2者かが担任によって異なるため、保護者として不安を感じた。

学校として、3年間通してどういうふうに学力をつけていくか目安を生徒にも保護者にも伝えれば安心できるのか。

進路検討会のフィードバックを生徒や保護者に対して伝える必要がある。

そのほか、受験に向けた65分の授業をどう組み立てるのかのねらいなど、ことあるごとに学校の考えを生徒・保護者に伝えることで、塾ではなく学校への信頼をより確立させることができる。

センター試験後の授業はどのような方針で行っているのか。受験に直結した授業や講座別授業をしたらどうか。2次試験目前になって、受験科目でない授業への必要性や意義を生徒が見出すことは難しいのではないか。

課題研究に関して、本校のように力を入れている学校とそうでない学校とある。塾のような指導が大学受験を超えるためには即効性が高いことは事実である。

地元からの入学が少なく、わざわざ遠くから登校し通学疲れしている生徒が増えていることも問題ではないか。

志を高く持ち、初志貫徹させ浪人でも構わないという指導をもっと強めてはどうか。

2 65分授業に関して

組み立ては教科によって異なり、社会科等は、多角的な情報を入れた方が良いが、数学は繰り返しが重要ではないか。

各教科の教員はプロである。教科ごとに、長期的（3年間）、中期的（1年間）、短期的（学期）に、どの程度の力をつけておけばよいのか、到達点を明確に整理する必要がある。そこから65分授業をどう組み立てるかが決まってくる。スケジュールと方向性を学校で統一し、何ができるようになるかの目標を共有することが重要である。教科の目標を明文化し、保護者にも示していくことが重要である。

子どものころから与えられたことを丸のみするという習慣がついてしまっていると、大学4年生で研究を始めた段階で手遅れになってしまう。したがってSSHで行う課題研究は価値の高いことである。一方で、課題研究で何をやっているのか、何に結び付くのが保護者には見えにくい面もある。特に文系の研究はその傾向がある。課題研究についても、目標や「どのような力をつけるのか」を保護者にわかりやすく理解してもらうことが大切ではないか。

<自治会役員生徒との意見交換>

1 生徒の入学前後のイメージ（生徒の意見）

文化祭などで静かでおとなしいイメージがあって入学したが、予想以上に行事で盛り上がっていた。

環境が整っていて上品で落ち着いている学校だから選んだ。海外研修が豊富である。

まじめな生徒が多く勉強に集中できると考えて入学した。授業中も静かに勉強できる。

まじめ・しずかというイメージはどこからきたか？制服の印象、塾の先生のことば

2 なぜ自治会の役員になろうと思ったのか

新しいことへの挑戦・中学で生徒会や委員長をやっていてさらにレベルアップしたい・前に立つのが好き・やってみたら楽しくてやりがいがあったため続けている。

配付資料

- ・令和元年度学校教育自己診断結果
- ・令和元年度学校経営計画
- ・令和2年度学校経営計画（全日制・定時制）